

「らしさ」輝く附属小

第10号 令和7年 6月13日(金) 校長 森内 秀学



北斗の子が心を見つめる週間です

保護者、地域、教職員が連携し、共に健全な子どもを育てていくことをねらいとした取組である「北斗の子の心を見つめる教育週間」。今年も本日までの4日間実施してきました。足元の悪い中、授業参観や育友会への多数の御参加、ありがとうございました。

命はとてもしっかり
人間が生きたための電池みたいだ
でも電池はいつか切れる
命もいつかはなくなる
電池はすぐにとりかえられるけど
命はそう簡単にはとりかえられない
何年も何年も
月日がたつてやっとな
神様から与えられるものだ
命がないと人間は生きられない
でも
「命なんかいらない。」
と言って
命をむだにする人もいる
まだたくさん命がつかえるのに
そんな人を見ると悲しくなる
命は休むことなく働いているのに
だから私は命が疲れたと言うまで
せいっぱい生きよう

「命」

宮越 由貴奈

立ち上げの日である火曜日は、体育館で全校朝会でした。小児がんのため、闘病生活の末に11歳で亡くなった宮越由貴奈さんの「命」という詩を題材にした校長の講話は、「命の使い方」がテーマでした(左)。

続いての村崎先生による講話のテーマは、「見えない心の伝え方」(下)。心は見えない

からこそ、その表れである言葉や行動をどうすべきか考えよう、というメッセージを、子どもたちに投げかけてくれました。

汚い言葉や傷つく言葉を発した際、一番近くで聞いているのは、自分の耳です。自分を、自分の命を大切にする意味でも、これを機会に子どもたちが自分の言動を振り返り、心を見つめてくれることを願います。



附属小がますます明るく開放的に！

左の写真をご覧ください。ビオトープ向こうの金網越しに、道路向かいの薬局が見えます。あれっと思った方は、かなりの附属小マニアです。そうです。これまでは、金網沿いには樹木が茂っていましたので、道路向かいの様子は見えなかったのです。伐採してくだ

さった(右)のは藤本教育学部長。おかげさまで、すっかり明るくなった道路沿いの歩道からは、整った教育環境や、子どもたちの学習の様子がよく見えるようになりました。閉ざされた環境で育てるより、開放的な環境で育てる方が、人は明るく前向きに育つのだそうです。これからますます子どもたちの「らしさ」が輝きそうですね。

